

## PHC - 100A サンプルプログラム

VISUAL BASIC 6.0とUNIXのシェルプログラムでのプログラム例です。

<Visual Basic VER6.0>

```
Private Sub Command1_Click()
```

```
    If MSComm1.PortOpen = False Then
        MSComm1.CommPort = 1           ' CommPort を 1 に設定します。
        MSComm1.Settings = "9600,N,8,1" ' 通信ポートを設定します。
                                         '(9600bps, ノンパリティ, データ長 8 ビット, ストップビット 1)
        MSComm1.PortOpen = True       ' 通信ポートを開きます。
    ENDIF

    MSComm1.Output = "@??1??!"        ' データ送信
    MSComm1.PortOpen = False          ' ポートを閉じます。
End Sub
```

(説明)

COMMANDボタンをクリックしたときに、PHC-100Aのリレーを全部ONにするルーチンです。  
送信データを変えるとON・OFFと動作させるリレーが変わります。

<UNIX>

シェル - スクリプトで作成しております。

『パトライトを全て点灯させる処理』

```
stty 9600 cs8 < /dev/cua/a
echo "@??1??!" > /dev/cua/a
```

『パトライトを全て消灯させる処理』

```
stty 9600 cs8 < /dev/cua/a
echo "@??0??!" > /dev/cua/a
```

(説明)

・UNIXサーバ(Sunワークステーション)にはA, Bの2つのRS232Cポートがあり、UNIXではそれを使用するには該当する特殊デバイスファイルを指定して入出力処理を行います。

Aポートにつないでいる時、上記パス(/dev/cua/a)を使用します。

/dev	特殊デバイスファイルのあるシステムディレクトリ
/cua	RS232Cポートの制御ファイルのあるシステムディレクトリ
/a	Aポートの制御ファイル Bポートにつなぐと/bとなる。

・処理は、

- 1) RS232CのAポートに、回線速度、信号の制御情報をsttyにて設定します。
- 2) RS232CのAポートに、PHC-100Aの仕様に合わせた信号のバイナリデータを直接発行します。  
(ポートのオープン、クローズは必要ありません。OSレベルで行います)